

建築という概念が終わる時

何年後になるだろうか。
人々が住む「家」としての建築の概念が変わる時が来るだろう。

「廃棄物を利用して自ら組み立てる。」

日本に於いては、今後様々な要因により既存の住宅の価値が下がっていくと仮定したい。
今までに建築されすぎた住宅は空き家だらけとなり、
高級タワマンといわれる高層マンションですら空室が目立ち始める。
人々はそれらへ低コストで入居できるわけだが、建築としてのアレンジ
すなわち改修やリノベーションは行わない。

物で溢れかえったこの時代、廃棄物の中から必要な物が見つかる世の中
となってしまった。
部屋の中に新たな壁を設けたいならば、廃材を利用して
自らが壁を作ることができる。
コストをかけずに居住者好みの形に、居住者自らで変えていくわけだ。

居住に対するコストが低くなれば人々の精神的な豊かさは増すかもしれない。

我々建築者は、
「どうやって建築を行うか。」という考えから、
「どのような組み立てアイデアを提案するか。」
という考えにシフトしていくのではなかろうか。

20年後なのか100年後なのかわからないが、
既存の建物を無くした先に新たな建築という行為が
必要となるまでは我々は耐えなければならないということだ。

